014 社殿　　**歓喜院聖天堂**　**拝殿・中殿・奥殿**　　江戸時代・宝暦 10 年(1760)

拝殿:桁行五間　梁間三間　入母屋造　正面三間向拝付　軒唐破風と千鳥破風

中殿:桁行三間　梁間一間　両下げ造

奥殿:桁行三間　梁間三間　入母屋造　二軒　正面間口一間向拝付　瓦棒銅板葺

拝殿

中殿(相の間)

奥殿

奥殿外部装飾彫刻

社伝によれば治承 3 年(1179)に斎藤実盛が大聖歓喜天を祀った聖天宮に始まるといい、その後有力者の手で造営が進み、また幾度かの火災や水害で整備が中断したが、地元大工林兵庫正清とその子正信の手により、宝暦年間にようやく完成した。聖天堂は昭和 59 年 12 月に重要文化財指定、その後学術調査を経て、平成 24 年 7 月国宝に指定された。近世初頭から霊廟建築などで発展してきた多様な建築装飾技術が惜しみなく注がれた、江戸時代中期の建築装飾の頂点の一つを示す建物である。これが庶民の寄進によって実現されたことは、庶民信仰の隆盛による近世宗教建築における装飾文化の普及の過程を現すものであり、わが国文化史上、高い価値を有している。

埼玉県熊谷市妻沼　048(588)1644　JR熊谷駅よりバス約 25 分聖天堂前下車